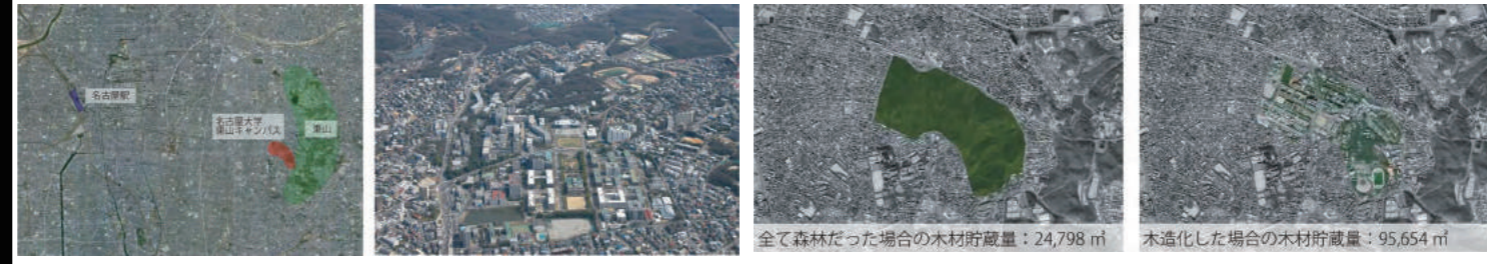


名古屋大学では、駐輪場やストリートファニチャー、柵や車止め、建物の内外装に、地域産の木材を積極的に活用したデザインを継続して行ってきた。未来の都市のモデルとしての大学キャンパスにおいて、地球・地域環境と地域産業のサステナビリティをつくり出すために、地域産の木材を活用し、大学外の都市に向けて発信している。

木材は、無機質な印象になりがちな大学施設に有機的で暖かい雰囲気を与えると同時に、健康にも好影響である。さらに、ストリートファニチャーのデザインや内装工事には学内外の大学生も参加し、建築・環境教育の機会となっている。

## 東山の森を名古屋大学につなげる

名古屋大学東山キャンパスは、名古屋市東部丘陵の森に接続している。豊田講堂がこの森を背負い、都市側に開く軸線がキャンパスの骨格となっている。自然と都市の結節点であるキャンパスの木質化を進めることは、キャンパスに第二の森を作ることでもある。



## カーボンストックをつくるサステナブルデザイン

国内の森林資源は増加しているにも関わらず、木材の自給率は35%程度にとどまり、特に地域産材の積極活用が求められている。循環的に管理された森林は温室効果ガスである二酸化炭素を吸収し、建築に活用されることで「カーボンストック」として長期間固定しておくことが可能になる。仮にキャンパスが総木造化した場合、そのストックは同面積の森林の4倍近くになる。



1. 間伐材丸太の駐輪場 (2011)



2. ES 総合館の研究室床木質化 (2011)



3. ES 総合館実験室の目隠しルーバー (2012)



4. 間伐材丸太のソーラーパネル付き電動自転車駐輪場 (2012)



5. ノーベル賞通りの車止め (2013)



1. ES 総合館前に駐輪場を設置 (現在は移設)。構法も新規に開発しキャンパス外にも波及。(県産杉)

2. ES 総合館の研究室の床 (約 180 m<sup>2</sup>) を木質化。50 人以上の大学院生が快適に使用している。(県産杉)

6. 研究所共同館 I エントランス天井 (2013)



7. NIC 多世代共用スペース (2015)



8. NIC の木質掲示板「Idea Board」 (2015)



3. ES 総合館実験室のヤードを約 40m 目隠し、修景している。(県産杉)  
4. 小径丸太を活用しソーラーパネル付きの駐輪場を設置。(県産杉)  
5. ノーベル賞通り (仮) の車止めポールを設置。(県産杉)  
6. 研究所共同館 I の天井および軒天井の 100 m<sup>2</sup>以上を木質化。(県産杉)  
7. 学生施工により NIC の多世代共用スペース (100 m<sup>2</sup>) を設置。(県産杉)  
8. NIC のポスター掲示板 (可動式パネル約 30 枚) を製作。(県産杉)

10. 野依記念館前のファニチャーの杉角材による更新 (2015)



11. 県産材のストリートファニチャー学生コンテスト (2015)



9. NIC の箱型の多目的家具 (約 30 個) を製作。(県産杉)  
11. 野依記念館前のストリートファニチャーの木材を県産材により更新。  
12. ストリートファニチャーの学生コンテストを開催し入選作品を一定期間展示、一部を継続設置。(県産広葉樹)  
10. 新しい木の架構を提案する学生コンテスト実施し展示。(県産杉)  
13. 研究プロジェクトで角材を組み合わせたファニチャーを設置。(県産杉)

12. 県産材によるモバイルシェッド学生コンテスト (2016)



13. 理系生協売店前のファニチャー (2016)



14. 研究所共同館 II 杉角材キッチン (2016)



14. 研究所共同館 II の各階に角材のキッチンカウンターを設置。(地域産杉)  
15. 研究プロジェクトで生協の売店の外壁を木質化。(地域産杉)  
16. 学生実験の一環で南部生協食堂横の緑地に角材の休憩所を設置。(県産杉)  
17. 幅広板を活用して屋内家具のコンテストを実施し一部を継続設置。(県産杉)  
18. 国産の CLT により車両通行ゲートの管理員詰所を木質化。CLT を現地で使う工法を開発し検証中。

15. 南部生協店舗の外装 (2016)



16. 南部生協前のベンチ (2017-18)



17. 県産材による家具提案学生コンテスト (2018)



18. 国産 CLT による交通員詰所 (2019)



( ) 内数字は移設前の設置場所